

# 最新事情

横断的なビジネスマナー教育により  
商業人としての資質を伸ばす

## 静岡県立浜松商業高等学校

(静岡県浜松市)

静岡県立浜松商業高校は今年で創立124年目を迎えた伝統校だ。生徒の個性を伸ばす教育活動を行うとともに「事務の浜商」としても知られ、専門性とコミュニケーション能力を併せ持つ人材の育成には地元企業からの信頼も厚い。商業科では円滑に社会へ出ていくための準備として授業の中に秘書検定を取り入れていく。同科での取り組みを伺った。

### 地域に根ざした教育環境で 生徒のやる気をサポート

明治32年に町立の商業学校として設立した静岡県立浜松商業高等学校。地元を中心に、これまで数多くの優秀な商業人材を輩出してきた。現在はマーケティングや会計などを学ぶ商業科とプログラミングやネットワーク管理などを学ぶ情報処理科に、約1000人が通っている。

意欲的で活発な生徒が多く、部活動も盛んだ。校内には早朝から練習にいきなす生徒たちの声が響く。運動部・文化部ともに全国大会の常連であり、珠算や商品開発といった商業系の競技を行う生産部も、全国大会出場を果たす強豪校として有名だ。オリンピックやプロスポーツの世界で活躍している卒業生も多い。

生徒のほとんどは地元の出身、またその多く

市内でも有数の文教地区に位置する静岡県立浜松商業高等学校



が親・兄弟も卒業生というサラブレッドたちである。「浜商で学びたい！」と入学してくるためか、モチベーションが高く、部活動や資格取得といった目的意識も強い。

「生徒が元々持っている意欲やチャレンジ精神を伸ばすことが、本校の基本的な教育方針です」と話すのは、教務主任の高林直人先生。

JR浜松駅のお土産ランキングで第2位の売上を誇る「浜松焼きそば」は、高林先生が副顧問を務める調査研究部が昨年、地元のソースメーカーと共同で開発したものだ。

「浜松はものづくりを尊び、イノベーションに積極的な土地柄。生徒には、本校で学んだことを生かして地域の発展に貢献する人材になってほしいと考えています」(高林先生)。

高等学校では今年度から、新学習指導要領に沿った指導がスタートした。改定に合わせて同校では、大きくカリキュラムを刷新。2年生からのコース制導入に加え、科目内容を大幅に改編した。

特に3年間の学びの集大成である「課題研究」の内容は大きく変わった。同校の「課題研究」では八つのテーマで講座を設置し「総合的な探究の時間」の代替として実施している。そこで「課題解決学習」としての側面を従来より充実。学習内容を細分化してより専門性の高い学びを提供するとともに、各講座ごとに特色を持ったカリキュラムづくりにも力を入れた。

中でも人的資源のマネジメントに特化した

(左から) 教務主任の高林直人先生、  
進路指導課長の澤木秀文先生、商業科主任の岩下大祐先生



調査研究部が地元企業と共同開発した「浜松焼きそば」。浜松で長年愛されてきた地ソースと名産のうなぎを使った一品



課題研究「人材マネジメント研究」の授業

「人材マネジメント研究」は講座のリニューアルで新たに設けたもので、企業経営だけではなく、人材自体のマネジメントを学ぶ。全国的にも珍しい試みだという。企画立案を手がけた高林先生は「どんなによい品・サービスを提供できても、受け継いでくれる人がいなければ、商業は成り立ちません。授業を通して人材育成の重要性を伝えたい」とその意義を語る。

同校では総合的な探究の時間の先行実施に

合わせて、今年度の3年生が既に新たな「課題研究」のカリキュラムで学んでいる。「人材マネジメント研究」は、教員や保育士を目指す生徒に加え、一般企業への就職を希望する生徒も多く選択している。いずれは後進を指導する立場になることを見据えているようだ。

## 学校生活の全てが ビジネスマナーの学びの場

今回の新学習指導要領では、商業教育における「資格」の位置付けも大きく変わった。特に「課題研究」では、資格取得だけを目的とした学習はふさわしくないとされ、生徒の主体的な学びや発表の場に行き届くことが求められた。

同校も以前は「課題研究」の中に、資格取得を目指す講座を設けていた。しかし今回の改定を機に変更。研究した内容を深める手段として、資格に挑戦する仕組みにした。

商業科主任の岩下大祐先生は高林先生とともにカリキュラムの改編に携わった。「地域の課題を見つけて解決することはもちろん、特に研究成果をアウトプットすることを重視しました」と改編に当たっての目標を話す。

「これからの社会を生き抜くためには、知識に基づく自分の考えを自分の言葉で表現し、他者に伝えられる力が必要です。1年生から積み重ねてきた学びの成果を、自らの手で発信することで、自信を付けて社会へ羽ばたいてほしい」と考えています(岩下先生)。

秘書検定の指導にも変化があった。講座「ビジネス研究」では、秘書検定の学習を通して、ビジネスマナーにおける課題設定と解決方法を研究する。検定受験は任意として、学習成果の一つに位置付けることにした。

それでも講座を受講する生徒の約半数が受験を希望する。また、受講していない生徒や他学科で、個人的に勉強を重ねて挑戦する生徒も多い。人気の理由について岩下先生は「資格の取得よりも、社会の常識を知りたい、社会人レベルの検定に挑戦してみたいという気持ちが強いです。本校の生徒ならではの傾向かもしれませんね」と話してくれた。過去には在学中に1級にチャレンジした生徒もいたそうだ。

高校で秘書検定を学ぶ際の大きな課題は、社会人経験のない生徒に会社やビジネスシーンでの振る舞いをイメージさせることだ。しかし、同校では1年生でビジネスマナーの基礎を、3年生の「総合実践」でビジネスにおける対人関係を学ぶなど、段階を踏んで横断的に学ぶシステムを取っている。そのため生徒たちが理解に戸惑うことはほとんどないそうだ。

「秘書検定を学ぶ頃にはビジネスマナーのベースが既にできているので、理解がしやすいようです」と話すのは、昨年度まで「総合実践」を担当していた、進路指導課長の澤木秀文先生だ。授業では、名刺交換などのロールプレイングに加えて、ビジネスシーンにおける適切な言葉遣いや配慮の仕方などを生徒にシミュレーション



最新事情 ⑤1…………静岡県立浜松商業高等学校

「総合実践」ではビジネスマナーの所作を練習



させる。マニュアルを一歩超えた応対力を養うのが狙いだ。

さらに同校においては、普段の学校生活そのものが生きたビジネスマナーを学ぶ場でもある。特に部活動では、指導教員をはじめ先輩・

後輩と密接に関わる経験をする。そのため、上下関係を踏まえた上で

の物事の考え方や判断の仕方、あいさつの習慣などが自然と身に付く。企業説明会で来校した卒業生に憧れて、社会人としての振る舞いを意識し始めることもあるようだ。「日々の生活で学んだことを、ビジネスの具体的な場面と結び付けてくれるのが秘書検定。経験と学習を照らし合わせることで、より深い学びにつながると思っています」(澤木先生)。

同校では約半数の生徒が卒業後に就職する。地元企業からの信頼は厚く「浜商の生徒だったら」と毎年声をかけてくる会社も多い。特に強い事務職では、希望者全員の内定が決まっても求人が余るほどだという。「卒業生が活躍してくれていること、そして地域の皆さまに支えていただいているおかげだと思っています」と澤木先生はうれしそうだ。

最後に高林先生が同科が目指す商業教育に

ついて語ってくれた。「ビジネス教育を通して生徒たちのコミュニケーション能力を育んでいきたい。他者と協力しながら、きめ細やかな仕事ができる人材を育てることが商業教育の意味だと考えています」。

高校生のうちに  
社会人の常識を身に付けたい

情報処理科3年生の白岩楓<sup>かえ</sup>さんは、秘書検定

3級に挑戦して合格した。受験のきっかけについて白岩さんは「中学3年生のときに秘書検定の存在を知って興味を持ちました。実は、浜商に入学した動機の一つが秘書検定に挑戦できることでした」と話す。入学後、募集が始まるとすぐに応募したそうだ。

同じく3年生で商業科の後藤亜沙美さんは2級に合格。「将来は医療秘書になりたいと考えています。夢をかなえるためには今から、基本的な社会人としてのマナーを知る必要があると思います、受験しました」(後藤さん)。

過去問題を読み込んで受験に臨んだという二人。勉強を進める上で難しかった点を聞いた。後藤さんは「ホチキスなど、商品名で覚えていた道具の名前を、正式名称に覚え直すのに苦労しました」と苦笑い。白岩さんは「わび状や招待状など、未経験の内容についての文書の書き方が難しかった」と話す。二人とも繰り返し勉強して慣れることでマスターしたそうだ。

秘書検定での学びは、特に言葉遣いに生か

されていると言う白岩さん。「人前で話すとき、丁寧な言葉遣いができるようになりました。信頼感を持って話を聞いてもらえるようになったと感じています」(白岩さん)。後藤さんは日常生活の中で、学びの手応えを感じることが多いそうだ。「先日、家族が祝儀袋の準備をしていたのですが、水引の結び方を一目見て、どのようなお祝い事かを推察することができました」(後藤さん)。

卒業後白岩さんは就職、後藤さんは専門学校へ進学する予定だ。「近い将来、自分がマナーや常識を教える立場になります。自信を持って伝えられるように勉強を続けていきたい」(白岩さん)。「学校生活を通して、社会に出る準備ができたと感じています。これからは自分の長所を生かして、人のためになる仕事ができる」(後藤さん)。二人は笑顔で抱負を語ってくれた。



(左から)情報処理科の白岩楓さん、商業科の後藤亜沙美さん。白岩さんは生徒会、後藤さんは茶道部で活動している